

ジャガイモと映画 (8)

<マッシュポテト>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お
浅間 和夫

今回は各種の肉料理や乳製品にも相性のよい添えものであり、晴れ舞台のメイン・デッシュにはなれないがその引き立て役になる“マッシュポテト”を取り上げる。ジャガイモが“組合せの王様”と呼ばれるのはこのような役も可能だからである。

32 『エイプリルの七面鳥』

(原題: Picese of April)

2003年、アメリカ映画。監督:ピーター・ヘッジズ。

ニューヨークに住む娘エイプリル(ケイティ・ホームズ)が、感謝祭の日に郊外に住む両親、祖母、弟妹を招く話。彼女の家に向かう車で、ガンを病む母などが絡んだトラブルや初めて一家を迎える娘が七面鳥を焼こうと散々努力する過程を描く。

余命幾ばくも無い母親のため初めて七面鳥のローストを作ろうとするがオーブンが故障。アパートの見知らぬ人々を頼りに駆けめぐる羽目となるため、ハプニングが続く。その際マッシュポテトをつくるためのポテトピーラ(写真1)、生いもを上から押して方形に切断する器具が彼女の不慣れな扱いのもとに出てくる。脚本家ピーター・ヘッジズの監督デビュー作であり、神経質な母親役のパトリシア・クラークソンも好演し、最後にオートバイに乗せてもらい全員

を一同に集めることに一役買う。アメリカ市民の幸福願望と、その実現のための盛り沢山のハプニングを見せてくれる。



写真1 ポテトピーラーで皮を剥く

33 『妹の恋人』 (原題: Benny & Joon)

1993年、アメリカ映画。監督:ジェレマイア・チェチック。

ある田舎町の自動車整備工場に勤める青年ベニー(エイダン・クイン)は、両親の死で心を病み自閉症気味となった妹ジューン(メアリー・スチュアート・マスターソン)に振り回されながらも彼女を支え、12年間兄妹だけで生きて来た。そんなある日、ポーカーのカケで友人の従兄弟である文盲の青年サム(ジョニー・デップ)を引き取ることになったベニーは、サムをジューンの世話役として使うことにする。

サムは、兄妹と出会ったばかりのレスト

ランで、パンにフォークを刺してリズムをとって遊んだり、ベニーの家に來てから生ジャガイモ（写真2）を細い網目のラケットのようなものでクラッシュしてマッシュポテトにしようとする変わり者。

サイレント映画に憧れ、バスター・キートンやチャップリンをはじめ、様々な映画の登場人物をパントマイムで物真似するのが得意という変わった雰囲気を持ち、機転も利く青年である。そんなサムとジューンのやりとりが面白く、ジューンが自然に惹かれていく…心温まる青春ラブ・ストーリーであった。



写真2 イモを潰そうとするジョニー・デップ

2019年3月9日放映のバラエティ特番「成功の遺伝史6」（日本テレビ系。札幌はSTV）があり、テニスのおみ等を取り上げていた。その時スペシャルゲストで出ていたお笑いコンビ『野性爆弾』の“くっきー”が、「自分が影響を受けた人物はハリウッド俳優のジョニー・デップである。恰好が悪くてダサイところを演じると上手いから惹かれる」と語っていた。その正体は、ジョニー・デップが演じたティム・バートン監督作『シザーハンズ』の主人公・エドワード。映画の主人公と言えばかっこ

よくて強くてモテるキャラクターが定番だが、逆に格好悪くて・弱くて・ダサイ生き物であるところに惹かれたという。

34 『ホーム・アローン』

（原題：Home Alone）

1990年、アメリカ映画。監督：クリス・コロンバス。

シカゴに住む大家族マカリスター家は、クリスマスの家族旅行としてパリに行くことになっていた。しかし、深夜に停電があり、目覚まし時計がリセットし皆が寝坊する。慌てたため、屋根裏部屋で寝ていたケビン・マカリスター（マコーレー・カルキン）少年だけが家に残り残されてしまう。

ケビンはうるさい家族がいなくなったことを喜び、悠々自適の一人暮らしを満喫する。しかし、その家を2人組の泥棒、ハリーとマーヴが狙っていた。迎え撃つケビンは頭脳明晰、我が家を泥棒から守るため、爆竹、熱いアイロン、ビデオといった日用品を用いて家中にトラップを仕掛け、泥棒たちと戦うことになる…。

アメリカのクリスマス映画と言えば、この『ホーム・アローン』シリーズが人気が高い。シリーズの途中で、少年役は変更している。筆者がこの映画を取り上げたのは、撮影の裏話に興味があったため。この場面で雪が降る、と脚本にあっても天候は神頼みとなることが多い。そこで、脚本・制作を担当したジョン・ヒューズ（後の1996年柔道アメリカ代表）は、マッシュポテト・フレークに着目し、これで雪を作り、特別注文した扇風機を使って入念にロケ地に散布することにした。映画が終わりに近い数分間窓越しに雪が降るなどの雰囲気を出し

ていた。厳密には本物とは違うが、視聴者には違和感なく映ったかどうか、折を見て御確認いただきたい。これらはある寒い冬のシカゴを舞台に始まるため、ポテトフレークの冬景色(写真3)をたっぷり楽しめよう。



写真3 ポテトフレークの雪

35 『未知との遭遇』

(原題: Close Encounters of the Third Kind)

1977年、アメリカ映画。監督: スティーヴン・スピルバーグ。

巨大な貨物船が、砂漠に失踪当時の姿のまま突然姿を見せたり、謎の発光体があちこちで確認された。大規模停電が発生したため、発電所勤務のロイ・ニアリー(リチャード・ドレイファス)が停電の復旧作業に向かう途中、不可思議な機械の誤作動を起こさせる飛行物体と遭遇する。

それから、憑かれたようにUFOの目撃情報を集め出し、枕やシェービング・クリームに漠然と山のような形を見出すようになる。さらに、インディアナ州に住む少年バリーは家の台所に入り込み冷蔵庫を漁っていた「何者か」と鉢合わせし、飛行物体の閃光を浴び、山の姿を描くようになる。

バリー少年が拉致された情報が飛ぶ中、学者のクロードは異星人と直接面会する地

球側の「第三種接近遭遇」プロジェクトをスタートさせる。異星人からのデータ送信は地上の座標を示す信号で、ワイオミング州にあるデビルスタワー(悪魔の塔)という山を指し示していた。

宇宙船と遭遇してからのロイの頭に浮かぶのは、寝ても醒めても宇宙船のことばかり。夕食時に盛り付けられたマッシュポテトを、子供が見ている横で、皿に岩山状に何度も盛り(写真4)、壊し、必死にその幻想景色を思い出そうとし、印象的なシーンを提供してくれた。



写真4 デビルスタワーの幻想

マッシュポテトづくりコツは、茹でてからザルにあけたものを、もう一度暖かい鍋に戻して、数分間加熱して余分な水分を飛ばすとよい。また、バターは室温まで上げておいたものを使い、牛乳も温めてから混ぜると、長くかき混ぜなくてすむ。

品種はホクホク系で、粘り気が少ないものがお奨めである。つまり、できれば「キタアカリ」(黄肉、淡赤目)、「男爵薯」、「さやあかね」(淡赤皮)、「ベニアカリ」(淡赤皮、でん粉多)、「はるか」(赤目)から選ぶとよい。